

令和5年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業)
分担研究報告書

HPV ワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査と
その対応方法に関する研究

研究分担者 鈴木 富雄

研究要旨

「HPV ワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査とその対応方法に関する研究」の一環として、大阪医科薬科大学病院を受診した新規の HPV ワクチン接種後の ISRR 患者のデータ収集を行った。研究期間に当院を受診した新規の ISRR の患者は確認されなかった。その理由としてはコロナ禍における新型コロナワクチンの接種率の向上と共に、一般医療機関でワクチンの筋注に対する意識が高まり、ワクチン接種後の有害事象を防ぐために、問診の段階から接種後の経過観察に至るまで、慎重かつ愛護的な措置が取られていることが考えられる。また、全国的に見ても、当該地域においても接種率はそれほど上がっていないという事実が関係している可能性がある。よって、今後接種率の上昇と共にこの傾向がどのように変わるのかを慎重にみていく必要がある。

A. 研究目的

HPV ワクチン接種後の ISRR の臨床データを集めその実態を探る。

ン接種後の ISRR とみられる患者は確認されなかった。

B. 研究方法

当院を受診した ISRR と考えられる患者に対して平成 25-26 年度厚生労働科学研究費補助金疾病・障害対策研究分野 慢性の痛み対策研究「慢性の痛み診療の基盤となる情報の集約とより高度な診療の為の医療システム構築に関する研究」及び平成 27-29 年厚生労働科学研究費補助金疾病・障害対策研究分野慢性の痛み政策研究「慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究」で用いられた問診チェックシートに従って情報を収集する。

(倫理面への配慮)

本研究については、愛知医科大学倫理委員会および研究班所属施設の倫理委員会を通して行っている。

C. 研究結果

本研究期間に新規に受診された HPV ワクチ

D. 考察

今回の HPV ワクチン接種後に軽微な発赤などの症状を訴えた患者はいるが、ISRR とみられる症状の患者は受診されなかった。理由として考えられるのは、一つ目として、新型コロナ感染症に対するワクチンの接種率向上により、ワクチン接種後に起こり得る有害事象に対する医療機関の意識が高まり、HPV ワクチン接種に対しても、コロナ禍前に比較して、問診の段階から接種後の経過観察にいたるまで、より慎重かつ愛護的に配慮されて行われるようになったことが推測される。二つ目としては、まだ接種率があまり上がっていないことが考えられる。今後の接種率の上昇と共にこの傾向がどのように変化するか注意深く調査を続けていく必要がある。

E. 結論

今回研究期間に当院を受診した新規の ISRR の患者は確認されなかった。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表
特になし
2. 学会発表
特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他
特になし